

### 2013年 4月 1日に公益社団法人の認定を受けました。

#### 役員 (H25年4月1日 現在)

##### 代表理事

尾前 照雄 国立循環器病研究センター  
名誉総長  
久山町ヘルスC&Cセンター長

##### 副代表理事

久芳 菊司 久山町長  
清原 裕 九州大学大学院医学研究院  
環境医学 教授  
(常務理事を兼任)  
北園 孝成 九州大学大学院医学研究院  
病態機能内科学 教授

##### 理事

有川 節夫 九州大学 総長  
飯田 三雄 公立学校共済組合  
九州中央病院長  
井手 義雄 社会医療法人雪の聖母会  
理事長  
岩尾總一郎 一般社団法人日本尊厳死協会  
理事長  
岩城 徹 九州大学大学院医学研究院  
神経病理学 教授  
上野 道雄 国立病院機構  
福岡東医療センター 院長  
小田 義直 九州大学大学院医学研究院  
形態機能病理学 教授  
梶山 千里 公立大学法人福岡女子大学  
理事長・学長  
久保 千春 九州大学 病院長  
佐伯 久雄 糟屋郡町村会 事務局  
佐渡島省三 医療法人相生会 新吉塚病院  
院長  
田中 健蔵 学校法人福岡学園 理事長  
田平 武 順天堂大学大学院医学研究科  
認知症診断・予防・治療学  
客員教授  
中野 昌弘 国立病院機構  
福岡東医療センター  
名誉院長  
貫 正義 九州電力株式会社  
代表取締役会長  
松田 峻一良 公益社団法人福岡県医師会 会長

##### 監事

木下 康一 久山町議会 議長  
中西 裕二 中西裕二公認会計士事務所  
所長

五十音順・敬称略

### ごあいさつ

久山生活習慣病研究所は、平成25年4月1日付けで、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の規定に基づき、福岡県より、その事業内容に公益性があると認められ、公益社団法人の認定を受けました。

今後とも、久山町研究をはじめとする医学研究の成果を活用・実用化して社会に還元するための事業を一層推進し、生活習慣病の克服を通じて国民の健康福祉の増進に貢献するための努力を続ける所存です。ますますのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表理事 尾前 照雄

### トピックス

#### ■ クアキニヘルスシステム(米国)との学術交流協定調印式

平成24年7月30日(月)に、九州大学にて、九州大学大学院医学研究院および大学医学系学府とクアキニヘルスシステムとの学術交流協定調印式が行われました。今回の学術交流協定により、久山町研究とクアキニの日系米国人コホート研究の国際共同研究が開始されます。この共同研究は、同じ日本人でありながら生活習慣が大きく異なる2つの集団で行われる世界的にも他に類を見ないコホート研究であり、日本人の生活習慣病の実態解明に大きく貢献することが期待されます。



左から、N. Miki Vice President、飛松省三副研究院長、G. Kajiwara President/CEO、片野光男医学研究院長、E. Knight executive assistant、清原裕教授、眞武智子事務局長

## ご寄稿：疫学と行政

筆者が行政官時代にかかわった疫学研究調査は数多くある。

93～95年の疾病対策課長時代、難病研究(特定疾患調査研究)事業には当時の文部省科研費に比して高額の研究費が割り当てられていた。疫学研究班も組織されており、患者への医療費補助がなされることから調査も効率的に行われた。これらの研究成果が難病治療薬、例えば潰瘍性大腸炎治療薬などの開発につながっている。

感染症を担当した96年夏、大阪府堺市でO157による学童集団下痢症が発生した。疫学調査班が組織され、カイワレ大根が原因ということになったが、業界から訴訟が起こされ、疫学の信頼性が疑われた。最高裁判決で疫学手法は正しいが厚生省の発表に問題ありとされた。特定生産者のカイワレ大根以外は大丈夫と、当時の菅厚生大臣がカイワレ大根を食す場面が報道された。

97年、研究開発振興課長時代、保健医療改革における医療の有効性、適切性、経済性などを明確な基準で評価するEBM(Evidence-based Medicine)の導入検討が始まった。メタアナリシスなどの疫学評価手法を用い、治療、予防に関する医療技術の評価プロジェクト(Cochrane Collaboration)が、世界的な規模で展開した。EBMに基づく個別の診療ガイドラインを公表し、医療関係者には徐々に定着していった。

98年、健康増進栄養課長の頃に「健康日本21」の策定作業を始めた。従来の行政指標とは異なるアウトカム指標の設定作業に、多くの若手公衆衛生学者、疫学研究者が参加した。「健康科学」や「ヘルスプロモーション」の考え方を取り入れた報告書が99年に完成した。2002年8月、健康増進法が成立し、「健康日本21」は国民の健康づくり・疾病予防を進める核的指標に位置付けられた。

この健康増進法や、06年成立のがん対策基本法施行に際しての裏付けとなる、がんや心臓病など生活習慣に関連する疾病のリスクファクターの情報集積に役立つ疫学研究として、大規模コホート研究がある。久山町生活習慣病研究は放射線影響研究所による原爆被爆者調査、国立がんセンター多目的コホート調査とともに、日本3大多目的コホート研究と呼ばれている。

疫学は推理する医学と言われる。医学医療の進歩のあらゆる場面で疫学手法が重用されるが、長期間の継時的観察には住民の協力が不可欠だ。久山町生活習慣病研究の成果は久山町民に還元される。その結果、町民はもとより、日本人の生活習慣が行動変容により改善されることを期待している。



理事 岩尾 総一郎 様  
(社)日本尊厳死協会理事長、  
慶應義塾大学客員教授

ご略歴:

産業医科大学助教授、厚生省入省、佐賀県保健環境部長、  
環境省自然環境局長、厚生労働省医政局長、  
世界保健機関(WHO)健康開発総合研究センター長、  
国際医療福祉大学副学長等を歴任。

## レポート：久山町住民の健康寿命

代表理事 尾前 照雄

健康寿命は自立した生活が可能な期間とされているが、その判断の根拠は必ずしも統一されていない。平成22年に厚労省の研究班が日本のデータを初めて検討し報告した。福岡県の健康寿命は47都道府県のうち男40位、女44位、平均寿命は男40位、女23位で全国平均の下位にある。

住民の健診が、心血管病やがんの発症と死亡の予防にどれほど役立つか確実な成績は国内外の文献には殆ど記載がない。福岡県保健環境研究所に県内市町村の健康状態の調査を依頼し、それに応えて要介護2～5の認定者を除外して健康寿命を算定してもらった。2009～2011年福岡県全体の健康寿命は男77.86歳、女83.68歳、平均寿命は男78.97歳、女86.29歳であった。久山町の健康寿命は福岡県60市町村のうち男3位で80.8歳、女は4位で85.3歳、糟屋保健医療圏では男は1位、女は2位であった。久山町健診50年間の効果が表れているように考えられた。

# 平成24(2012)年度の活動

## 久山町研究

### ■ 健診事業



平成24年度は、5年ごとに行われる40歳以上の住民を対象にした生活習慣病予防健診と、7年に一度65歳以上の高齢者を対象に行われる高齢者調査が重なった年である。生活習慣病予防健診は平成24年6月28日から10月20日までの計41日間、久山町ヘルスC&Cセンターで行われ、その後引き続き病院・施設入所者を対象とした訪問健診も実施された。40歳以上の受診者数は3,174名であった。健診

では、問診、身体計測、血圧測定、診察、採血、75g経口糖負荷試験（空腹時、負荷後30分および120分）、検尿、心電図、頸部血管エコー、服薬調査、栄養調査、身体活動調査、呼吸機能検査、骨密度検査、眼科検診、歯科検診、ストレス検査に加え、新たに九州大学病院睡眠時無呼吸センターによる睡眠時無呼吸検査が行われた。高齢者調査では脳ドック検診を行い、平成24年5月28日から10月21日までの計115日間間に1,505名の高齢者が受診した。この検診では、脳MRI検査、脳機能検査、運動機能検査、日常生活動作に関する調査を実施した。

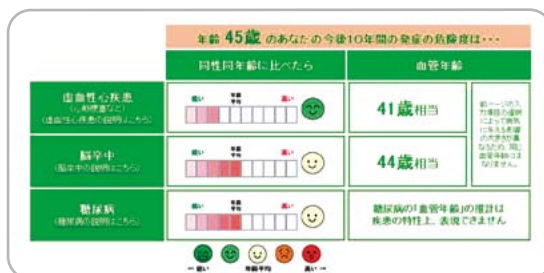


### ■ 牛乳・乳製品の摂取がメタボリックシンドローム等に与える影響に関する疫学研究

平成20年度より、株式会社明治および中村学園大学との共同研究において、牛乳・乳製品摂取がメタボリックシンドローム (MetS) 等の生活習慣病に与える影響を検討してきた。平成14年の集団の横断研究および昭和63年の集団の追跡研究において、乳・乳製品の摂取量とMetSの有病率および発症率の間に有意な負の関連が認められることを明らかにした。また、昭和63年の高齢者集団の追跡調査において、乳・乳製品摂取が認知症発症の有意な防御因子であることを見出し、その成績を第54回日本老年医学会学術総会 (H24.6月、東京) で発表した。今年度はこれらの成果の論文化に取り組んだ。また、タンパク質摂取量が生活習慣病に与える影響について検討を開始した。

### ■ リスクスコアモデルの開発

久山町における追跡調査の成績を用いた心血管病及び糖尿病発症の予測モデルを利用した生活習慣病の発症予測システム (H21.9.25特許共同出願済) を株式会社野村総合研究所が商品化している (商品名:「健康みらい予報」)。ユーザーより発生する「健康みらい予報」に関する医学的・統計的な問い合わせの対応業務を前年度に引き続き、野村総合研究所から受託した (H24.5.21～H25.4.30)。この「健康みらい予報」は、福岡県が県民のライフスタイルに応じた健康づくりを支援するために開設した「福岡県健康ポータルサイト<http://www.kenko.pref.fukuoka.lg.jp> (H25.4.3開設) で活用されることとなった。



## ■ 久山町研究における血中脂肪酸と生活習慣病との関係に関する共同研究

平成23年3月より、持田製薬株式会社および九州大学との共同研究において、久山町研究における血中脂肪酸と生活習慣病との関わりについて検討している。

### 久山町研究室の原著論文(2012.1.1~2012.12.31)

01. Mukai N et al.: Cut-off values of fasting and post-load plasma glucose and haemoglobin A1c for predicting type 2 diabetes in community-dwelling Japanese subjects: the Hisayama Study. *Diabetic Med* 29: 99-106, 2012
02. Doi Y et al.: Two risk score models for predicting incident type 2 diabetes in Japanese. *Diabetic Med* 29: 107-114, 2012
03. Iida M et al.: White blood cell count and risk of gastric cancer incidence in a general Japanese population: the Hisayama Study. *Am J Epidemiol* 175: 504-510, 2012
04. Miyazaki M et al.: Dietary vitamin A intake and incidence of gastric cancer in a general Japanese population: the Hisayama Study. *Gastric Cancer* 15: 162-169, 2012
05. Fukuhara M et al.: Impact of lower range of prehypertension on cardiovascular events in a general population: the Hisayama Study. *J Hypertens* 30: 893-900, 2012
06. Ikeda F et al.: Smoking cessation improves mortality in Japanese men: the Hisayama study. *Tob Control* 21: 416-421, 2012
07. Yoshida D et al.: Prevalence and causes of functional disability in an elderly general population of Japanese: the Hisayama Study. *J Epidemiol* 22: 222-229, 2012
08. Shikata K et al.: Optimal cutoff value of the serum pepsinogen level for prediction of gastric cancer incidence: the Hisayama Study. *Scand J Gastroenterol* 47: 669-675, 2012
09. Gotoh S et al.: Insulin resistance and the development of cardiovascular disease in a Japanese community: the Hisayama Study. *J Atheroscler Thromb* 19: 977-85, 2012
10. Ozawa M et al.: Self-reported dietary intake of potassium, calcium, and magnesium and risk of dementia in the Japanese: the Hisayama Study. *J Am Geriatr Soc* 60: 1515-1520, 2012
11. Hirakawa Y et al.: Association between glucose tolerance level and cancer death in a general Japanese population: the Hisayama Study. *Am J Epidemiol* 176: 856-864, 2012
12. Ohara T et al.: Association study of susceptibility genes for late-onset Alzheimer's disease in the Japanese population. *Psychiatr Genet* 22: 290-293, 2012
13. Asakuma T et al.: Prevalence and risk factors for myopic retinopathy in a Japanese population: the Hisayama Study. *Ophthalmology* 119: 1760-1765, 2012

### 他施設との共同研究論文(2012.1.1~2012.12.31)

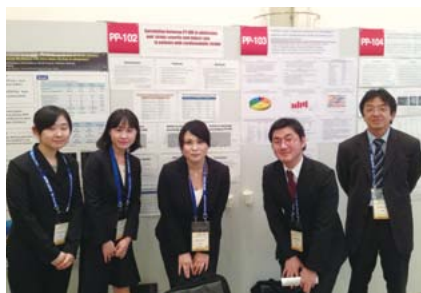
14. Nakamura Y et al.; the NIPPON DATA80 Research Group (Kiyohara Y): Prognostic values of clockwise and counter-clockwise rotation for cardiovascular mortality in Japanese subjects: a 24-year follow-up of the National Integrated Project for Prospective Observation of Noncommunicable Disease and Its Trends in the Aged, 1980-2004 (NIPPON DATA80). *Circulation* 125: 1226-1233, 2012
15. Ueda K et al.; the NIPPON DATA80 Research Group (Kiyohara Y): Exposure to particulate matter and long-term risk of cardiovascular mortality in Japan: NIPPON DATA80. *J Atheroscler Thromb* 19: 246-254, 2012
16. Turin TC et al.; the NIPPON DATA80 Research Group (Kiyohara Y): Diabetes and life expectancy among Japanese - NIPPON DATA80. *Diabetes Res Clin Pract* 96: e18-22, 2012
17. Turin TC et al.; NIPPON DATA80/90 Research Group (Kiyohara Y): Hypertension and life expectancy among Japanese: NIPPON DATA80. *Hypertens Res* 35: 954-958, 2012
18. Nakamura K et al.; the EPOCH-JAPAN Research Group (Kiyohara Y): Influence of smoking combined with another risk factor on the risk of mortality from coronary heart disease and stroke: pooled analysis of 10 Japanese cohort studies. *Cerebrovasc Dis* 33: 480-491, 2012

19. Fujiyoshi A et al.; EPOCH-JAPAN Research Group (Kiyohara Y): Blood pressure categories and long-term risk of cardiovascular disease according to age group in Japanese men and women. *Hypertens Res* 35: 947-953, 2012
20. Nagasawa SY et al.; EPOCH-JAPAN Research Group (Kiyohara Y): Relation between serum total cholesterol level and cardiovascular disease stratified by sex and age group: a pooled analysis of 65 594 individuals from 10 cohort studies in Japan. *J Am Heart Assoc* 1: e001974, 2012
21. Yokoyama H et al.: Renal disease in the elderly and the very elderly Japanese: analysis of the Japan Renal Biopsy Registry (J-RBR). *Clin Exp Nephrol* 16: 903-920, 2012
22. Yokoyama H et al.; on behalf of the Committee for the Standardization of Renal Pathological Diagnosis and for Renal Biopsy and Disease Registry in the Japanese Society of Nephrology (Kiyohara Y): Membranous nephropathy in Japan: analysis of the Japan Renal Biopsy Registry (J-RBR). *Clin Exp Nephrol* 16: 557-563, 2012
23. Saito I et al.: Prospective study on waist circumference and risk of all-cause and cardiovascular mortality: pooled analysis of Japanese community-based studies. *Circ J* 76: 2867-2874, 2012
24. The Emerging Risk Factors Collaboration (Kiyohara Y): C-reactive protein, fibrinogen, and cardiovascular disease prediction. *N Engl J Med* 367: 1310-1320, 2012
25. Rapsomaniki E et al.; Emerging Risk Factors Collaboration (Kiyohara Y, Arima H, Doi Y, Ninomiya T): A framework for quantifying net benefits of alternative prognostic models. *Stat Med* 31: 114-130, 2012
26. The Emerging Risk Factors Collaboration (Kiyohara Y, Arima H, Doi Y, Ninomiya T): Adult height and the risk of cause-specific death and vascular morbidity in 1 million people: individual participant meta-analysis. *Int J Epidemiol* 41: 1419-1433, 2012
27. Murakami Y et al.; the Asia Pacific Cohort Studies Collaboration (Kiyohara Y, Doi Y, Ninomiya T): Diabetes, body mass index and the excess risk of coronary heart disease, ischemic and hemorrhagic stroke in the Asia Pacific Cohort Studies Collaboration. *Prev Med* 54: 38-41, 2012
28. Yau JW et al.; the META-EYE Study Group (Yasuda M, Kiyohara Y, Ishibashi T): Global prevalence and major risk factors of diabetic retinopathy. *Diabetes Care* 35: 556-64, 2012

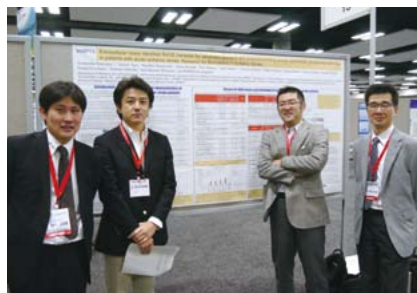
## 福岡脳卒中データベース研究(Fukuoka Stroke Registry: FSR)

### ■ 多施設共通データベースを用いた脳卒中に関する臨床疫学研究

平成25年2月末までの登録実績は同意取得患者数7,498名、データ入力完了患者数7,124名である。同意取得率は89%、追跡率は95%台を維持している。学会発表は、国内学会としては第37回日本脳卒中学会総会（H24年4月、福岡）で19題、第53回日本神経学会学術集会（H24年5月、東京）、第54回日本老年医学会学術集会（H24年6月、東京）、第35回日本高血圧学会（H24年9月、名古屋）、第5回福岡県医学会総会（H25年2月、福岡）でそれぞれ1題の発表を行った。老年医学会学術集会では最優秀演題賞、高血圧学会ではLate-Breaking Session、福岡県医学会総会では一般演題優秀賞に選ばれた。国際学会としては21. European Stroke Conference（H24年5月、リスボン）で1題、Asia Pacific Stroke Conference 2012（H24年9月、東京）で5題、International Stroke Conference 2013（H25年2月、ハワイ）で9題の演題を発表した。これまでのデータの論文化も進み、Stroke誌、Neurology誌、Cerebrovascular Diseases誌、European Journal of Neurology誌に各1編の論文が採択された。



APSC2012（アジア太平洋脳卒中会議、東京）  
左から、九州大学大学院病態機能内科学 脳循環研究室  
金澤有華先生、石川ひろみ先生、砥上妃美子先生、  
司城昌大先生、荒川修司先生



ISC2013（国際脳卒中会議、ホノルル）  
左から、脳循環研究室 秦淳先生、桑城貴弘先生、  
吾郷哲朗先生、脇坂義信先生



日本老年医学会学術集会（東京）  
左から、脳循環研究室 松尾龍先生、鴨打正浩先生  
（最優秀演題賞受賞）

## ■ 脳梗塞におけるバイオマーカー探索、解析に関する共同研究 (REBIOS)

すでに脳梗塞患者180名の登録を終了し、脳梗塞の診断、脳梗塞各病型の診断、脳梗塞の増悪予測、脳梗塞の予後予測を可能とするバイオマーカーを見いだした。九州大学、三菱化学株式会社と共同で国内特許出願中である。また、最も性能のよい3種類のバイオマーカーについては国際特許出願手続きを完了した。さらに、現在これらのバイオマーカーの機能解析のための基礎研究を行っており、得られた成果はBMC Neurology誌、Brain Research誌に各1編ずつ論文として発表した。

## ■ 脳梗塞におけるバイオマーカーの検証に関する共同研究 (VREBIOS)

本研究は、REBIOSで脳梗塞との関連が明らかとなったバイオマーカーの有用性を検証し精度の高いバイオマーカーを探索することを目的とする。九州大学、田辺三菱製薬株式会社、及び三菱化学株式会社との共同研究である。一過性脳虚血発作や出血性脳血管障害を含めた発症24時間以内の急性期脳卒中症例全例を対象として、REBIOSでの知見の再現性と脳梗塞特異性を検討している。平成24年9月末までに838例の症例が登録され、予定通り目標症例数800例に到達したため登録を終了した。研究期間は平成26年3月までを予定しており、現在はバイオマーカーの解析と検証を行っている。随時、中間解析を行い結果について検討している。

## ■ 脳梗塞におけるバイオマーカー探索、解析に関する共同研究 2 (REBIOS 2)

本研究は、REBIOSで脳梗塞との関連が明らかとなったバイオマーカーの臨床応用を目指して、九州大学、三菱化学株式会社と行っている共同研究である。REBIOSで見出されたバイオマーカーの臨床応用を目指して、めまい患者においてバイオマーカーを測定しさらなる検証を行う。登録目標症例数は30例として各施設の倫理委員会で承認され、平成25年3月末までに30例の登録を終了した。

## ■ 脳梗塞急性期における有害事象に関する疫学調査

脳梗塞急性期治療薬エダラボンと急性期脳梗塞患者の腎障害に関する検討結果がまとめられ、論文を投稿中である。

## ■ 脳卒中患者における脳梗塞治療薬の有効性等に関する検討

FSRのデータを用いて、脳卒中患者における脳梗塞治療薬の有効性等に関する検討に係る研究を田辺三菱製薬株式会社と共同で実施している。t-PA治療患者における出血性梗塞に対するエダラボンの効果について解析を行い、得られた成果は今年の日本脳卒中学会総会で発表した。

## ■ 日本人のための脳梗塞再発リスクスコア開発のための共同研究

九州大学、富山大学、日本脳卒中協会とともに、FSRのデータを用いて脳梗塞患者の再発を予測するための簡便なリスクスコアを開発した。リスクスコアはFukuoka Stroke Risk Score for Japanese (FSRJ)と名付け、研究成果はCerebrovascular Diseases誌において公開されている。脳卒中予防に貢献する目的で、日本脳卒中協会と共同でFSRJを全国に発信する準備を行っている。

## 福岡県糖尿病患者データベース研究 (Fukuoka Diabetes Registry: FDR)

福岡県内の糖尿病を専門とする医療機関16施設に平成20年から22年にかけて通院中の糖尿病患者5,131人について、食事、運動、メンタルヘルスを含む臨床情報ならびに血液、尿、DNAを収集し、コホート集団とした。追跡調査は5年間の予定で、登録患者の治療状況や合併症(脳心血管障害、腎機能、網膜症、足病変、重症低血糖、骨折、癌など)について医師が直接カルテや画像診断などを閲覧し、高い精度でフォローしている。追跡データはデータベースソフトに随時入力されており、糖尿病患者の予後に影響する因子を詳細に検討する予定である。さらに、DNAは遺伝子多型を理化学研究所で解析中であり、環境因子と遺伝因子を統合した糖尿病患者のデータベースが構築される見込みである。一方、糖尿病患者の予後を知るためには、健常者のデータとの比較が必要であるが、我々の登録時の調査は久山町の平成19年度の健診内容を含んでいるので、久山町の健常住民と比較することにより、糖尿病患者の予後をより明確にすることが可能である。

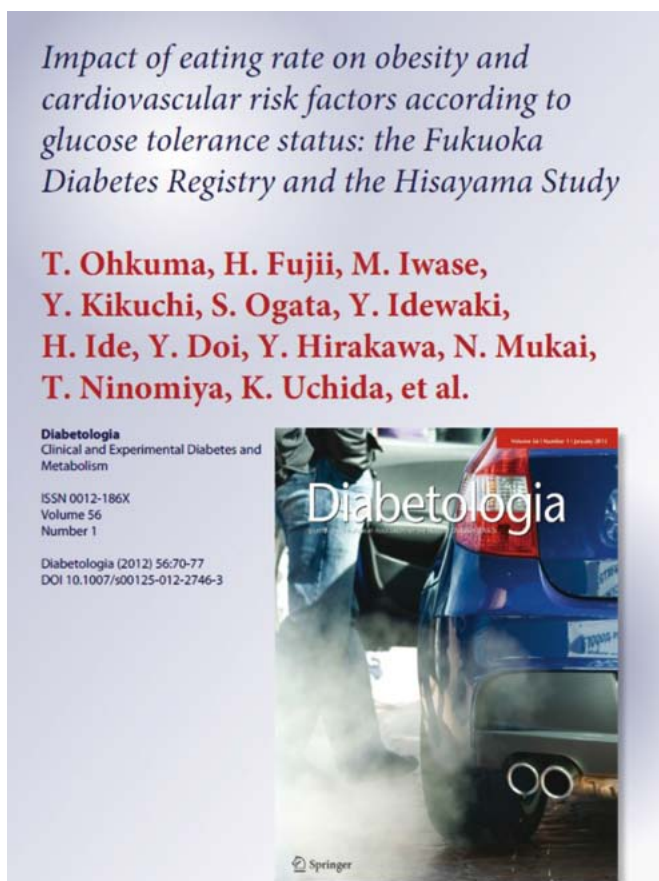
### 論文発表

- ①食事速度が速いほど、肥満やメタボリック症候群の合併が多く、さらに、インスリン治療中の糖尿病患者では血糖コントロールも悪かった(ヨーロッパ糖尿病学会誌Diabetologia)。
- ②睡眠時間が短過ぎても(5.5時間未満)長過ぎて(8.5時間以上)も肥満が多く、血糖コントロールが不良であった(アメリカ糖尿病学会誌Diabetes Care)。

### その他の学会発表

- ①男性2型糖尿病患者における飲酒の影響 :地域住民との比較 (FDR 5)
- ②2型糖尿病患者における運動強度からみた身体活動量の影響: 福岡県糖尿病患者データベース研究 (FDR 6)
- ③CKD合併2型糖尿病患者におけるメタボリック症候群とアルブミン尿の関連 :福岡県糖尿病患者データベース研究(FDR 7)
- ④食物繊維の摂取が2型糖尿病患者の病態に与える影響 (FDR 9)

### 本研究プロジェクト最初の論文



糖尿病は世界で、特にアジア太平洋地域で急増しており、我々の報告が同地域での糖尿病治療に少しでも役立つことを願いながら今後とも新たな知見を報告していきたい。また、本研究は文部科学省の科学研究費(基盤研究A)に採択され、追跡調査終了の平成27年度まで研究費が継続される見込みである。

## その他

### 健康講話および講演 (尾前照雄代表理事)

平成24年度は以下の通り久山町にて健康講話および講演を行った。

#### 老人クラブ健康講話

- H24. 7. 26 (木) 「老人の健康」  
上久原老人クラブ, 上久原公民館, 参加者: 38名
- H24. 10. 16 (火) 「老年者の健康と病気」  
中久原老人クラブ新建会館, 参加者: 64名
- H24. 12. 15 (土) 「久山町に住んで10年の思い」  
上山田老人クラブ, いつき会館, 参加者: 53名
- H25. 2. 8 (金) 「老化は防げるか」  
いきいきサロン・いつき会, いつき会館, 参加者: 18名
- H25. 2. 12 (火) 「老人の生き甲斐」  
下山田若宮老人クラブ, 下山田公民館, 参加者: 54名



#### 講演

- H24. 11. 17 (土)  
久山健康田園都市財団設立20周年記念講演会 「健康寿命とは」(久山ケイマンゴルフ場, 参加者: 約40名)

### ご寄付をいただきありがとうございます

平成24年度は、賛助社員および一般寄付として、総額5,810,000円の寄付を頂戴しました。この場をお借りして、改めて感謝の意を表します。

(個人) 川北 幸男 様 他 匿名 1名 様,

(団体) 聖マリア病院 (理事長 井手 義雄) 様 他 匿名 3団体 様

当法人は、九州大学病態機能内科ならびに環境医学を中心とした疫学研究と臨床研究の成果を活用し、生活習慣病の予防と治療法の開発を通じて国民の健康福祉の推進に貢献することを目的としています。また、当法人への寄付金は、特定公益増進法人への寄付金として、所得税・法人税の税制上の優遇措置があります。

本法人の活動にご賛同下さる方は、賛助社員(事業年度のみ)としてご支援いただければ幸甚に存じます。個人一口1万円から、団体一口10万円からとなっています。詳しくは法人事務局にお尋ねいただくか、または、法人ホームページ [www.hisayamalife.or.jp](http://www.hisayamalife.or.jp) をご覧ください。